

トピアリーの歴史とトピアリーガーデンの設計・施工

造園緑化コース

1. はじめに

国際園芸アカデミーに入学する前、造園業は樹木の剪定というイメージしかなかった。勉強していくにつれて、剪定についてもトピアリーという樹木の刈り方があることを知った。トピアリーは刈り込みに適している樹木を幾何学的模様、動物やキャラクターなど様々な形にするものであるが、その姿を見て心が打たれ、まさに芸術だと感じられた。樹木一つで作品を作るという考えに興味を惹かれ、平成24年度卒業研究・卒業制作「どうぶつからの贈り物」のトピアリーガーデンを改修し、自分でもトピアリーを制作したいと思い、研究・制作のテーマとした。

2. トピアリーの歴史

トピアリーの語源はラテン語の「TOPIA（刈り込む）」と言われており、日本トピアリー協会では「植物を人工的・立体的に形づくる造形物」と定義している。

花や樹木などで作る造形物は、現代の自然志向、環境志向にマッチしたもので、子どもから大人まで幅広い人気があり、園芸文化として注目されている。

トピアリーの起源は古代ローマ時代まで遡る。当時の庭師が、生垣に自分のイニシャルをこっそり刈り込んだのが始まりと言われている。

3. ヨーロッパのトピアリーと日本

イタリア：イタリア式庭園はテラス、水景、噴水、古代彫刻、アーチ、ボックスヘッジ、花壇が特徴的で、これらが調和することで格式高い雰囲気を生む。この風景に合うよう幾何学的模様のトピアリーがメインであることが分かった。

フランス：フランス式庭園はイタリア式庭園とさほど変わらず、幾何学的デザイン、対象配置、水景、彫刻、花壇、長いアクシスなどで構成されている庭園である。フランス式庭園のトピアリーは通路や装飾的な境界線として利用されていることが分かった。

イギリス：イギリス式庭園は広大な芝生や自然な景観を強調し、特にランドスケープデザインが重視され、庭園が周囲の自然環境と調和し、風景造成により、視覚的な奥行きや起伏が特徴的である。イギリス式庭園では迷路のように刈り込んだ庭園「メイズ」と結び目模様で刈り込んだ間に草木を植え込んだノットガーデンで構成されていることが分かった。

日本：日本では刈り込みを築山（蓬莱山）など庭の主役とする庭園がある。また、樹木を玉型、四角型、円錐型に形を整えることが多い。

4. トピアリーの種類

文献調査の結果、刈り込み型トピアリー、立体フレーム型トピアリー、立体花壇、フラワートピアリー、スタッフトピアリー、モストピアリー、ドライフラワートピアリー、二次元トピアリーの8種類のトピアリーがあることが分かった。

5. 事例調査

トピアリーガーデンの設計・施工をするにあたって、名古屋港ワイルドフラワーガーデン ブルーボネット（愛知県名古屋市港区）にて事例調査をおこなった。調査内容は全体の株数、トピアリーの形、樹種、奥行き、幅、高さを測った。維持管理方法を聞き、考察、改善策をまとめ、実際に制作する際の参考とした。

6. トピアリーガーデン調査

全体的に植物が茂り、トピアリーガーデンのシンボルである鳥の形をしたイヌツゲのトピアリーは形が分からなくなる程成長し、園路にハイバクシンがはみ出しており、足に引っかかると危ない状態であった。また、景石も崩れていた。現況図を作成するため植物の種類、本数、高さ、幅を調査し、現況図を作成した。先輩の卒業論文によれば 24 種類の植物が植栽されていたが、そのうち 6 種類が枯死し、現在 18 種類が残っていた。

7. トピアリーガーデン設計・施工

(1) 設計：先輩のトピアリーガーデンのコンセプトを尊重しながら、①そのまま残す、②敷地内の移動、③撤去する植物に分け、剪定方法、トピアリーの形状、景石などを検討し、設計図を制作した。その後、先生からのアドバイスにより実施計画図を制作した。

(2) 施工：施工日は 12 月 14 日、15 日、18 日、19 日の合計 4 日間である。植物は計画図に基づき剪定したが、全体のバランスを見ながら、枝数や高さを変更した。トピアリーは枝を竹に縛り、胴体と尾羽とした。また、鳥の頭が敷石の園路から見やすい方向に変更したため、バードバスを鳥の頭の下に移動した。また、景石を据え直した。バーク堆肥を敷き、仕上げに全体を清掃した。完成後、現場で変更した箇所を記載するため完成図を制作した。

8. まとめ

トピアリーはこまめな剪定が必要であり、すぐに形が崩れてしまう。卒業してからも関心を持ち続けたい。



写真-1 トピアリーガーデン施工前



写真-2 トピアリーガーデン施工後